

# グローバル・コミュニケーション研究所

## 2014年度活動概要

〈2014.4～2015.3〉

### 研究プロジェクト

- グローバリゼーションの段階と移民の言語管理——評価の多様性に関する民族誌的研究——  
代表：サウクエン・ファン（本学国際コミュニケーション学科教授・当研究所所長）

今年度は共同研究プロジェクトの全体テーマである「評価の多様性と言語管理」を中心に、言語教育および言語管理の観点から議論を行い、予定通りに4回の研究会を開催した。

- (1) 共同プロジェクト立ち上げのための研究会 2014年7月26日(土)
- (2) 言語管理研究会第34回定例研究会 2014年7月26日(土)  
話題提供者1：福永 由佳（国立国語研究所）  
題目：言語のなかの歴史と社会——在日パキスタン移民の多言語使用を事例に——  
話題提供者2：横須賀 柳子（国士舘大学）  
題目：インターンシップ参加留学生の予備職業的発達
- (3) 言語管理研究会第35回定例研究会 2014年10月25日(土)  
話題提供者1：菊地 浩平（日本学術振興会（PD）/ 国立情報学研究所）  
題目：手話通訳者の専門用語訳出に際する評価と調整  
話題提供者2：ミラー 成三（千葉大学）

題目: 日本に住む外国人のアイデンティティ語られるアイデンティティと演じられるアイデンティティによる記述の可能性

- (4) 言語管理研究会第36回定例研究会 2014年12月13日(土)  
話題提供者1: 竹内 明弘(国際大学)  
題目: 留学生が遭遇した問題の言語管理プロセス——評価に着目して——  
話題提供者2: 北村 孝一郎(神田外語大学)  
題目: 社会的に構築される属性と言語管理——異文化コンテキストにおける共通言語話者同士のインターアクション分析から——
- (5) 言語管理研究会ワークショップ「言語管理とプロセス研究」 2015年3月7日(土)  
第1部: 「言語管理理論の基礎をさぐる」  
話題提供者: 言語管理研究会メンバー  
対談: S. K. ファン(神田外語大学)・竹内 明弘(国際大学)  
第2部: 「言語管理研究とプロセス研究」  
話題提供者: 言語管理研究会メンバー  
対談: 菊地 浩平(国立情報学研究所)・大場 美和子(昭和女子大学)

- オーストラリア英語、ニュージーランド英語、カナダ英語  
〈語彙モジュール〉及び〈発音モジュール〉の構築  
代表: 関屋 康(本学英米語学科教授)

本研究プロジェクトでは、『神田外語大学×東京外国語大学 英語モジュール』の〈語彙モジュール〉と〈発音モジュール〉を開発している。〈語彙モジュール〉と〈発音モジュール〉は、科研費(「社会言語学的変異研究に基づく英語会話モジュール開発」課題番号: 24320106)で開発してい

る〈会話モジュール〉としてすでに公開されている「アメリカ英語」、「イギリス英語」、「オーストラリア英語」、「ニュージーランド英語」、「カナダ英語」の会話に出てくる語彙と発音を「読み物風」に記述したものである。

前年度は、この二つのモジュールの第一弾となる「アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い」と「ㄱ発音の違い」の開発に着手し、今年度は、元原稿の修正・加筆および監修、さらに、〈会話モジュール〉の該当動画とリンクする作業を行い、本学と東京外国語大学の『英語モジュール』サイトで公開した。引き続き、今年度は、第二弾として「オーストラリア英語とニュージーランド英語の語彙の特徴」、「ㄱ発音の特徴」、第三弾として「カナダ英語の語彙の特徴」、「ㄱ発音の特徴」の開発を進めている。

- KUIS 生のグローバル意識—— KUIS 生の海外志向性に関する研究——  
代表：澁谷由紀（本学国際コミュニケーション学科講師）

初年度は KUIS 生のグローバル意識の全体的な傾向を把握するための予備的な量的調査を行った。その結果をふまえて、今年度はより丁寧に KUIS 生の海外志向性の特徴を明らかにするために質的調査を実施した。「単に海外に出ること＝外向き志向とは言えないのではないか」という問題意識から、異文化環境で実際に生活経験をし、学習機会を得たことによる意識や行動の変容に焦点を当てた。具体的には H25 年度春期語学研修（英語）参加者（79 名）の研修報告書をテキストデータとして、海外滞在経験を通じて、異文化・自文化に対してどのような気づきがあり、トラブルや困難にどのように対処し、自身のどのような変化を認識しているのかについて分析を行った。異文化社会へのネガティブ・イメージの払拭、自文化の再認識、World Englishes への受容的態度、発話積極性と学習モチベーションの向上、さらに調和的人間関係への志向性などが明らかになった。

- ヒロシマとロスアラモスの歴史を伝える：次世代に継ぐ平和への歩み  
代表：梶本智子（本学国際コミュニケーション学科教授・当研究所副所長）

本研究では、ヒロシマにおける原爆の歴史を次世代にどのように伝えていくのか、その方法を構築していくことを目的としている。原爆の投下から70年の節目の年が近づいているが、記憶の風化が懸念されている。「次世代にいかにも原爆を伝えていくのか」ということを念頭に、現在行われている方法を検証するために、実際に活動をしている人々にインタビューを行った。「広島・長崎講座」の最も新しい認定を受けた東北芸術工科大学の田中勝氏に芸術を通して伝えるメッセージについて詳しいインタビューを行った。国外でこの講座を開講しているアメリカ大学は講座認定の条件の一つである、広島訪問のため毎夏来日しているが、担当教員に来日時の詳しいスケジュールやワークショップの内容などを聞くことができた。また、共同研究メンバーが以前に被爆者へ取材をしたデータの文字化と英訳を付けた簡単な映像作成の完成を目指して作業をすすめている。

●東西交流の起源：大航海時代と日本～日本・メキシコ・ポルトガル・スペイン関係史の研究～

代表：柳沼孝一郎（本学イベロアメリカ言語学科教授）

本共同研究は、大航海時代の延長戦上で展開された日本とイベリア両国すなわちポルトガル及びスペインの関係、当時スペインの植民地であったヌエバ・エスパーニャ（現メキシコ）およびスペイン植民地フィリピンと日本の交流、南蛮貿易などの経済交流、南蛮美術および南蛮文化の伝播、キリスト教布教および宣教師の布教活動などの様々な観点から、東西交流の起源、すなわち大航海時代における近世日本とヨーロッパ諸国との交流の歴史変遷を明らかにするものである。

本学が総力をあげて展開する共同研究『アジア太平洋総合研究』の先行研究として位置づけられる本共同研究では、共同研究者各自は、関連のある学会あるいは神田外語大学紀要にその成果を発表し、2014年度内に神田外語大学出版局から『東西交流の起源：大航海時代と日本』として出版する予定である。

**GCI キャンパス・レクチャー・シリーズ講演会**

- 第 20 回 (5 月 9 日) 「キューバは今——日本外交の現場から」 本学イベロアメリカ言語学科共催  
佐藤博史 (特命全権大使)  
司会: 柳沼孝一郎
  
- 第 21 回 (6 月 17 日) 「ベトナムの村人と共に歩む——涙あり、笑いありの地域づくり」  
伊能まゆ (NPO Seed to Table 代表)  
司会: 岩井美佐紀 (本学アジア言語学科教授)
  
- 第 22 回 (10 月 3 日) 「チチェン・イツァの太陽の刻印——メキシコのアイデンティティ密林に眠るマヤ文明の世界」 本学イベロアメリカ言語学科共催  
アルトゥーロ・モンテロ (テペヤク大学 大学院研究センター長)  
司会: 柳沼孝一郎
  
- 第 23 回 (10 月 14 日) 「カナダのマリファナ問題——1960 年代から続く熱い議論」  
マルセル・マルテル (カナダ・ヨーク大学教授)  
司会・解説: 矢頭典枝 (本学英米語学科准教授・当研究所副所長)
  
- 第 24 回 (11 月 13 日) 「シンポジウム〈TOEIC と英語モジュール〉」  
パネリスト:  
関屋 康  
神崎正哉 (本学国際コミュニケーション学科語学専任講師)  
矢頭典枝  
フィリップ・マーフィー (本学 English Language Institute ディレクター、准教授)

ELI教員(Jacob Breaux、Carla Bridge、Marnie Brown、Nicholas Canning、Shawn Hupka、Caroline Hutchinson、Jason Ropitini、Aurelie Treadwell)  
司会: 矢頭典枝

- 第25回(12月5日)「現代日本社会における親密さとは何か」 本学日本研究所共催

ローラ・デールズ(西オーストラリア州立大学准教授)

クリスティー・コリンズ(筑波大学准教授)

エマ・ダルトン(本学日本研究所専任講師)

司会: サウクエン・ファン

通訳: マーク・ウィンチェスター(本学日本研究所専任講師)

- 第26回(12月19日)「アフリカの中のアンゴラ、世界の中のポルトガル語圏」 本学イベロアメリカ言語学科主催、地域国際分野会共催

名井良三(元駐アンゴラ日本大使)

司会: 舩方周一郎(本学イベロアメリカ言語学科講師)

- 第27回(1月20日)「韓国の歴史教科書」

上山由里香(韓国・成均館大学東アジア学科博士課程修了)

司会: 豊島悠果(本学アジア言語学科准教授)

#### オープンディスカッション(公開座談会)

- 第4回(6月27日)留学生と語る!WEEK 春学期第一弾「わたしの多言語環境: オーストラリア、スペイン、インドネシア」

話題提供者:

Lisa Abi(インドネシア・アトマジャヤ大学)

Carolina Cornejo Godoy(スペイン・バルセロナ自治大学)

Kimberly Whiting(オーストラリア・クイーンズランド工科大学)

コーディネーター: サウクエン・ファン

- 第 5 回 (6 月 30 日) 留学生と語る! WEEK 春学期第二弾「異文化との出会いについて語ろう!」

ディスカッション協力:

本学留学生別科「日本語インターアクション 5」クラス生 10 名

古瀬彩加 (本学英米語学科 4 年)

山下 彩 (本学英米語学科 4 年)

小野寺優太 (本学英米語学科 3 年)

松本紫央里 (本学国際コミュニケーション学科 2 年)

コーディネーター: 松本陽子 (本学留学生別科准講師)

- 第 6 回 (12 月 5 日) 留学生と語る! WEEK 秋学期第一弾「日本語の書き言葉と私」

話題提供者:

Vilan Rebecca (アメリカ・フロリダ国際大学)

Rico Guastavino Nicolas (スペイン・マドリッド自治大学)

Do Thu Thao (ベトナム・ハノイ大学)

Cheng Lu (中国・大連大学)

Pianprakhon Songwut (タイ・ブラパー大学)

コーディネーター: サウクエン・ファン

- 第 7 回 (12 月 12 日) 留学生と語る! WEEK 秋学期第二弾「外国語学習とわたし」

ディスカッション協力:

本学留学生別科「日本語インターアクション 5」クラス生 6 名

足立帆波 (本学国際コミュニケーション学科 4 年)

関山朋和 (本学英米語学科 4 年)

岡島有紀 (本学英米語学科 3 年)

コーディネーター: 松本陽子

**幕張新都心公開セミナー**

- 「現代ブラジル政治経済のゆくえ——命運を握る大統領選挙——」 ジェトロ・アジア経済研究所共催  
二宮康史（アジア経済研究所地域研究センターラテンアメリカ研究グループ 副主任研究員）  
舩方周一郎  
司会：高木 耕（本学イベロアメリカ言語学科准教授）

**学生プロジェクト**

- 「日本社会の多様性 (diversity)」第1回『日本社会における多言語サービス』ポスターコンテスト開催